

ソコトゥリ語の起源と歴史的変遷：

無声後部歯茎摩擦音の観点から*

二ノ宮崇司

1 はじめに

本稿の目的は、アラビア半島南部で話されているマフラ・セム諸語 (Mahrian Semitic=MahS) からマフラ・セム祖語 (proto-Mahrian Semitic=proto-MahS) を再建し、proto-MahS からソコトゥリ語 (Soqotri=Soq.) への歴史的変遷を明らかにすることである。ここでは、MahS の音韻史の中でも、最も複雑な無声後部歯茎摩擦音 (以下、後部歯茎摩擦音) の問題に着目していく。なお、proto-MahS の再建に使用した言語は、メフリ語 (Mehri=Mhr.)、ハルスースイ語 (Harsusi=Hrs.)、ジッバーリ語 (Jibblai=Jib.)、Soq. の 4 言語である¹。以下の対応 (音対応 1-6) に着目していく。

音対応	Mhr.	Hrs.	Jib.	Soq.	(例)
1	k	k	çʰ	ʃ	「腹」 Mhr. 'kirət / Hrs. 'ke:rət / Jib. 'ç'irət / Soq. 'ʃerit
2	ʃ	ʃ	çʰ	ʃ	「眠り」 Mhr. ʃə'ne:t / Hrs. ʃə'ne:t / Jib. çʰonut / Soq. 'ʃinoh
3	h	h	ʃ	h	「盗人」 Mhr. 'he:rək' / Hrs. 'he:rək' / Jib. 'ʃerk' / Soq. i'harək'
4	h	h	ʃ	ʃ	「名前」 Mhr. 'ham / Hrs. 'həm / Jib. 'ʃum / Soq. 'ʃəm
5	θ(ʔ ɒ)	ʃ	ʃ	ʃ	「わきの下」 Mhr. 'xot / Hrs. mə'ʃxawt / Jib. 'ʃxət / Soq. 'ʃhoh
6	h	h	h	ʃ	「木」 Mhr. hə'r:majt / Hrs. hə'rom / Jib. hərum / Soq. 'ʃerehom

* 本稿は 2006 年 11 月 25 日に京都産業大学で開催された西アジア言語研究会でおこなった研究発表に加筆修正を施したものである。西アジア言語研究会でコメントを下された方々に感謝の意を表したい。

¹ これら 4 言語の音素目録とストレスの位置については、二ノ宮 (2005) を参照。

この6つの音対応をもとに歴史的変遷を論じていくが、第2節では先行研究がどのあたりまで進展したのかを提示し、その上で筆者の再建に対する考え方を示す。第3節では筆者が予め想定している proto-MahS の再建形から Soq.への歴史的変化を論じる。本稿が再建の対象にしているのは、名詞（一部、形容詞も含む）であって、動詞は扱わない。セム諸語の動詞は語型の類推によって水平化が起きやすく扱いにくいからである。また、本稿の再建形は Johnstone (1987) などの辞書資料に基づくものであり、実際の音声資料によるものではない。proto-MahS の音韻体系の概略については付録 A を、再建のために使用した語彙、並びに再建形は付録 B を参照していただきたい。

2 先行研究

proto-MahS を体系的に再建した研究はない。ただし MahS における後部歯茎摩擦音に着目した歴史研究は見られる。それは、Leslau (1937, 1938, 1939-44), Militarev & Kogan (2000) などである。Leslau (1937, 1938, 1939-44) の研究は MahS に主眼を置いて、他のセム諸語（ヘブライ語、アラム諸語、アラビア語、ゲエズ語）との関連性を見出した。そして、Militarev & Kogan (2000) はセム祖語（proto-Semitic=proto-S）、アフロ・アジア祖語の研究の一部として、MahS に着目している。なお、これらの先行研究が起源として想定しているのは proto-S であって proto-MahS ではない。本稿で取り扱う音対応に関する先行研究は以下の通りである。

音対応 1 : k と後部歯茎摩擦音²の対応である。Militarev & Kogan (2000: xcvi-xcvii) で挙げられているが、k と後部歯茎摩擦音の対応自体は Leslau (1937) で挙げられており、両者とも proto-S に *k を想定していると考えられる。*k に後続する前寄りの狭母音（あるいは、接近音の j）が要因となって口蓋化が起き、後部歯茎摩擦音へ変化したと考えられる。

音対応 2 : Militarev & Kogan (2000) で挙げられている対応である。proto-S には *ʃ, *ʃ_x, *k の3つの可能性がある。*ʃの可能性を想定した研究は

² Jib.の ɕ^y は後部歯茎摩擦音の変種であり、Johnstone (1981) 以来知られている音であって、Leslau (1937, 1938, 1939-44) の段階では知られていなかった。

Johnstone (1981), Militarev & Kogan (2000: xciv) である。そして *t_x の可能性を想定した研究は Militarev & Kogan (2000: xcviii-cv) であり、ここでは *t_x を無声側面摩擦音の変種と考えている。*k の可能性を想定した研究は Militarev & Kogan (2000: xcvii) である。Militarev & Kogan (2000) はこの音対応の proto-S に対して 3 つの音を再建しているが、これは *ʃ, *t_x, *k の何れか 1 つが proto-S に再建されるというものではなく、語彙の違いによって再建の選択が決まるというものである。

音対応 3、音対応 4:h と後部歯摩擦音の対応である。Leslau (1937: 212-213, 1938: 32-33), Militarev & Kogan (2000: xc-xci, xciv-xcvi) で挙げられている。Leslau (1937, 1938), Voigt (1987: 55), Militarev & Kogan (2000) は起源的な *ʃ が h に変化したと考えている。歴史言語学では *ʃ > h の変化は弱化³と考えられている。

音対応 5: 管見の及ぶ限り、1 例の対応である。Militarev & Kogan (2000: 212) は *ʃ を再建する。

音対応 6: Militarev & Kogan (2000) はこの対応自体を挙げていない。Leslau (1939-44: 268) はこの対応を挙げ、h をより古いものと考えた。

音対応 1 については先行研究通り *k を proto-S に再建する。音対応 3, 4, 5 についても先行研究に従って proto-S に *ʃ を再建する。音対応 2 については Militarev & Kogan (2000) の研究成果を支持し、proto-S に *ʃ, *t_x, *k の 3 つの音を再建する⁴。音対応 6 については proto-S に *h を再建しない。対応する語彙を他のセム諸語と比較した結果、この *h が proto-S 以降の少なくとも南セム祖語の段階において補填されたと考えられるからである⁵。

音対応 1, 3, 4, 5 については proto-S の再建結果を proto-MahS にそのまま当

³ 弱化とは隣接する母音の影響によって生ずる同化現象である。Hock (1991: 82) はこの現象を有声性と共鳴性が増すものとしているが、*ʃ > h は有声性が増すでもなく、共鳴性が増すでもない。Hock (1991: 81) は ʃ を含む伝統的に歯摩擦音といわれている音が h に変化する現象を(呼気の)口腔接触の消失が起こり、喉頭における摩擦性を保持するものと述べている。即ち、歯摩擦音の段階では呼気が主に口腔で阻害されていたのに対し、h に変化した段階では呼気が主に喉頭で阻害されると考えられる。

⁴ *t_x を proto-S に再建する根拠については、二ノ宮 (2007: 55-56) を参照。

⁵ proto-S には再建されず、南セム祖語の段階において *h が補填されたと考えた根拠は、二ノ宮 (2007: 46) を参照。

てはめることが順当であろう。音対応2の $*t_x$ に遡るものについては、proto-S から proto-MahS への変化において $*t_x$ が $*ʃ$ に体系的に推移したと考えられる⁶。同じく音対応2の $*k$ に遡るものについては、proto-S から proto-MahS への変化において $*k$ は後続に $*-i-$ がくる環境で $*ʃ$ に変化し、それ以外の環境では $*k$ が保持された考えられる。音対応6については南セム祖語の段階において補填された $*h$ が proto-MahS に継承されたと考えられる。以上をまとめると次のようになる。

音対応	Mhr.	Hrs.	Jib.	Soq.		proto-MahS		proto-S
1	k	k	ç ^y	ʃ	<	*k	<	*k
2a	ʃ	ʃ	ç ^y	ʃ	<	*ʃ	<	*ʃ
2b	ʃ	ʃ	ç ^y	ʃ	<	*ʃ	<	*t _x
2c	ʃ	ʃ	ç ^y	ʃ	<	*ʃ	<	*k
3	h / j	h / j	ʃ	h / j	<	*ʃ	<	*ʃ
4	h / ħ	h / ħ	ʃ	ʃ	<	*ʃ	<	*ʃ
5	∅(ʔ)	ʃ	ʃ	ʃ	<	*ʃ	<	*ʃ
6	h	h	h	h / ʃ	<	*h	<	*∅(ʔ)

3 マフラ・セム祖語からソコトゥリ語への変化

1～6の対応から proto-MahS として再建されたものは $*k$, $*h$, $*ʃ$ の3つである。以下、各々の起源がどのような歴史的变化を辿ったのかを考察する。

3.1 起源的 $*k$

	Soq.	proto-MahS
(例1) 「腹」	'ʃe:riʔ	< *'kerʔ ⁷
(例) 「子羊」	'kobaʔ	< *'kabaʔ

⁶ この根拠については、二ノ宮 (2007: 56) を参照。

⁷ MahS ではアッカド語、アラビア語のような格語尾が見られず、さらに、ヘブライ語のように一部の単語で格語尾の痕跡が残っているというわけでもない。以上から proto-MahS には格語尾が存在していなかったと考えられる。

proto-MahS の *k の直後に前寄りの狭母音 (*-i-, *-e-) が来る場合、Soq. で ʃ に変化し、それ以外では保持されると考えられる。上の (例1)「腹」では、proto-MahS において *k- の直後に *-e- が来ていたからこそ、Soq. で ʃ に変化したのに対し、(例)「子羊」では前寄りの狭母音が後続していなかったからこそ、*k- が保持されたと考えられる。

3.2 起源的 *h

	Soq.	proto-MahS
(例25)「木」	ʃerehom ~ heram	< *he'ram
(例)「ポート」	hori	< *hawrj ⁸

proto-MahS の *h が ʃ に変化した理由として、Leslau (1939-44: 268) が提示した異化による説明を採用する。上の (例25)「木」における Soq. の ʃerehom では語中に -h- が見られるのに対し、heram では見られない。また、(例)「ポート」でも語中に h が見られない⁹。Soq. の ʃerehom の古い段階は *herehom であって、その *herehom が語中の -h- からの異化によって ʃerehom に変化したと考えられる。

3.3 起源的 *ʃ

proto-MahS の *ʃ が Soq. において ʃ と h に分裂する条件の規則を考える必要がある。この規則を考えるにあたり、先ず Voigt (1987) の研究を挙げておく。Voigt (1987: 55) は起源的 *ʃ が Mhr. への変化において、i 母音が隣接

⁸ MahS の対応を提示する。Mhr. 'hawri, Hrs. 'hori, Jib. hori, Soq. 'hori < proto-MahS *'hawrj.

⁹ この Soq. の -h- は「寄生的 h」と呼ばれるものである (Lonnet & Simeone-Senelle 1997: 353)。この h は Soq. において独自に付加されたものであり、proto-MahS に再建されないと考えられる。h が挿入されるという点で類似した現象に「遅れた声の出だし」と呼ばれるものがあるが、Hock (1991: 121) は母音 (あるいは共鳴音) に先行する子音が無声閉鎖音の場合に h が挿入されるという (例えば、ta が tha となる場合がある)。しかし、この Soq. の例では、proto-MahS の第2音節の *-a- 母音に先行する子音が r であるため、この Soq. の -h- は Hock (1991) が言う「遅れた声の出だし」と異なるものである。この Soq. の「寄生的 h」が音変化上どのように発生したのかは不明である。

する環境では保持され、それ以外の環境では h に弱化するということを想定した。以下、その具体例を挙げる。

「七日間」	^h j̄i:ba (ju:m)	<	*√ʃbʃ
「七 (男性)」	^h o:ba	<	

上の両例は proto-MahS の語根 *√ʃbʃ に遡る同族語である。Voigt (1987) の提示した考えを踏まえると、「七日間」では *ʃ- に後続する母音が *-i- だったからこそ *ʃ- が保持され、「七 (男性)」では *ʃ- に後続する母音が *-i- でなかったからこそ、*ʃ- が h- に弱化したということになる。この規則を proto-MahS の *ʃ が Soq.において ʃ と h に分裂した場合に当てはめ、改めて以下の規則を提示する。

- ・規則 1 : (i) *ʃ (proto-MahS) に隣接する母音が *i の場合、*ʃ が保持される。(ii) *ʃ (proto-MahS) に隣接する母音が *i でない場合、*ʃ が弱化する。

また本項では、語頭・語中・語末ごとに事例を見ていく。先ず、proto-MahS において *ʃ が語頭に現れる例では、#C₁V- の場合と#C₁C₂- の場合に分ける。

#C₁C₂- の例は、以下の例のように proto-MahS から Soq.への変化において当該子音に母音が隣接してこなかったために弱化が起こらず *ʃ- が保持されたと考えられる。

	Soq.		proto-MahS
(例 5) 「ナイフ」	^h ʃkoʔ	<	* ^h ʃkVʔ
(例 24) 「わきの下」	^h ʃhoh	<	* ^h ʃxawt

次は、#C₁V- の場合である。規則 1 が妥当かどうかを検討する。

(i)	Soq.	proto-MahS
(例 2) 「眠り」	'ʃinoh	< *ʃi'nVt
(例 3) 「尻」	'ʃeh	< *ʃit
(例 4) 「肝臓」	'ʃebdəh	< *ʃib'dit
例外		
(例 6) 「太陽」	'ʃam	< *ʃam (, *ʃim) [説明 3]
(例 18) 「名前」	'ʃem	< *ʃəm [説明 3]
(例 19) 「緑色」	'ʃəʒrhar	< *ʃə'ʒar [説明 2]
(例 20) 「歯茎」	'ʃe'bi:jih	< *ʃebi'jet [説明 2]
(例 21) 「胃」	d ^ə -bə-'ʃa:fəl	< *ʃafl [説明 1]

(ii)	Soq.	proto-MahS
(例 8) 「盗人」	i'harak'	< *ʃa'arak' (, *ʃerk')
(例 9) 「七 (男性)」	'je:bəʕ	< *ʃobʕ ¹⁰
(例 10) 「七 (女性)」	'je:bəʕəh	< *ʃob'ʕət
(例 11) 「六 (男性)」	'jhaʕt	< *ʃett
(例 12) 「六 (女性)」	'hi:təh	< *ʃe'tət

(i) の例外は (6), (18-21) であった。これらの例外を処理する。

[説明 1]

(例 21) d^ə-bə-'ʃa:fəl (Soq.) < *ʃafl (proto-MahS)

Soq.の -ʃ- の直前の -bə- は Soq.のある古い段階において *-bi- であったと推察される。そして、*-ʃ- の直前が *-i- であったからこそ、proto-MahS の *-ʃ- が保持されたと考えられる。*-i- であると推察した根拠は、アラビア語において bi のように i が現れているからである。即ち、proto-MahS よ

¹⁰ MahSの基数詞ではアッカド語で見られるような「屈折を起こさない絶対形」と「屈折を起こす自由形」の区別がない。すでに proto-MahS の段階において、基数詞の絶対形と自由形の区別がなかったものと考えられる。

り古い西セム祖語に *bi- を再建して、「Soq.のある古い段階」においても、*-bi- であったと考えられる。

[説明 2]

(例 19) 'ʃəɮrhar (Soq.) < *ʃə'ɮar (proto-MahS)

(例 20) 'ʃe'bi:jih (Soq.) < *ʃebi'jet (proto-MahS)

なぜ、Soq.において ʃ- が現れているのであろうか。音変化で考えると、ここで再び (例 25)「木」の例に振り返る必要がある。proto-MahS の *he'ram が Soq.の 'ʃerehom に変化したのは、Soq.の語中の -h- からの異化であると考えた¹¹。(例 25) を利用すると、(例 19, 20) はそれぞれ一度弱化した。そして、(例 19) は proto-MahS の *ʃə'ɮar が *həɮrhar に変化し、語中の *-h- からの異化によって 'ʃəɮrhar に変化したと考えられる。(例 20) は *ʃebi'jet が *he'bi:jih に変化し、語末の *-h からの異化によって 'ʃe'bi:jih に変化したと考えられる¹²。

[説明 3]

(例 6) 'ʃam (Soq.) < *'ʃam (, *ʃim) (proto-MahS)

(例 18) 'ʃem (Soq.) < *'ʃəm (proto-MahS)

(例 6) の Soq.には 'ʃhom [L4:418] という変種が見られる¹³。'ʃhom では ʃ- に母音が隣接していなかったために、*ʃ- が保持されたと考えられる。即ち、(例 6) の Soq.は一度 *ham に変化したのが、'ʃhom からの類推によって、'ʃam に変化したと考えられる。また、(例 18) も Soq.において 'ʃhem [L4:418] という変種が見られる。'ʃhem は (例 6) と同じように、ʃ- に母音が隣接していなかったために、*ʃ- が保持されたと考えられる。即ち、(例 18) の Soq.は一

¹¹ この Soq.の -h- は注 9 で述べた「寄生的 h」であるが、音変化上どのように発生したのかは不明である。

¹² (例 12) の 'hi:təh (< *ʃe'tət) では散発的な異化が起きなかったと考えられる。

¹³ Soq.の 'ʃhom 「太陽」、'ʃhem 「名前」の語中の -h- は注 9, 11 で述べた「寄生的 h」であるが、今までと同じく、音変化上どのように発生したのかは不明である。

度 *hɛm に変化したが、'ʃhem からの類推によって、'ʃɛm に変化したと考えられる。

以下は proto-MahS において *ʃ が語中に現れる例である。

	Soq.	proto-MahS
(例 7) 「舌」	'le:ʃin	< *'leʃn (, *'lʃen)
(例 13) 「土」	'hohi	< *'hVʃj

(例 7) おいて、proto-MahS の *'leʃn が Soq. の 'le:ʃin に変化する際 -i- が挿入された。*ʃ の弱化が起きる時期に *-i- が隣接していたからこそ、*-ʃ- が保持されたと考えられる。それに対し (例 13) では proto-MahS の段階において *-ʃ- の直後が *i ではなく j であったため、*-ʃ- は -h- に変化したと考えられる。Soq. の -i は *ʃ > h の変化が済んだ後に、*j から変化して出てきたものであると考えられる。(例 13) は *'hVʃj > *'hVhj > 'hohi という変化を辿ったと考えられる。

proto-MahS において *ʃ が語末に現れる例に着目し、この語末の *ʃ が Soq. において -ʃ と -h に分裂した条件¹⁴として以下の規則を設ける。

- ・規則 2 : (i) *ʃ (proto-MahS) の直前が母音の場合、*ʃ は弱化する。
- (ii) *ʃ (proto-MahS) の直前が子音の場合、*ʃ は保持される。

(i)	Soq.	proto-MahS
(例 15) 「五 (女性)」	'hojməh	< *xoj'moʃ
(例 16) 「頭 (単数)」	'rhej	< *'rVʃ
(例 17) 「臼歯 (単数)」	'maʒrəh	< *ma'ʒrəʃ
例外		
(例 14) 「五 (男性)」	'hi:meh	< *'ximʃ, *'xajmʃ

¹⁴ 細かく見れば、h だけでなく、j も見られる。h/j への分裂条件があるかどうかは不明である。

(ii)	Soq.	proto-MahS
(例 22) 「山羊」	'teʃ	< *'tajʃ
(例 23) 「臼齒 (複数)」	ma'ɬarəʃ	< *ma'ɬVrʃ

説明を要するのは、(例 14) である。

(例 14) 'hi:meh (Soq.) < *'ximʃ, *'xajmʃ (proto-MahS)

(例 14) に関しては、相対的年代による説明が妥当かどうかを検討する。先ず、proto-MahS に候補の 1 つである *'ximʃ を再建する。その *-ʃ に先立つ母音として -e- が挿入された (起源的には *-ə- が挿入され、第 1 音節の -i- 母音からの遠隔順行同化によって、-e- に変化したと考えられる)。次に、その -e- の影響で *ʃ > -h の変化が起きた可能性がある。しかし、この説明だけでは (例 23) 「臼齒 (複数)」においても、*ʃ > -h の変化を想定することになる。即ち、(例 23) において *ʃ に先立つ母音として -ə- が挿入され、その -ə- の影響で *ʃ が -h に変化したということを考える必要がでてくる。即ち *ma'ɬVrʃ > *ma'ɬVrəʃ > *ma'ɬVrəh という変化を想定しなければならなくなる。この問題を解消するにあたり、語末の子音連続数の違いに着目していく。(例 23) の proto-MahS の ma'ɬarəʃ は *-rʃ のように 2 子音連続である。そして、(例 14) の *'ximʃ は (例 23) と同じく、2 子音連続である。しかし、(例 14) にもう 1 つの候補である *'xajmʃ を再建するなら、*ʃ-jmʃ のように 3 子音連続を想定することになる。おそらく、語末の 2 子音連続における母音挿入¹⁵と 3 子音連続の場合の母音挿入は年代が異なっていた可能性がある。語末の 3 子音連続の場合、母音挿入が起きてから、*ʃ > -h の変化が起きたと考えられる。即ち、*-CCʃ > *-CCVʃ > *ʃ の弱化 という変化である。それに対し、語末の 2 子音連続の場合、*ʃ > -h の変化が

¹⁵ この現象は散発的に起こるものと考えられる。Soq.の一般的な現象として、語末の 2 子音連続は許される。例えば、「犬」'kalb (Soq.) < *-lb (proto-MahS) や「下腹部」'hant (Soq.) < *-mθ (proto-MahS) では、語末の 2 子音連続が proto-MahS から Soq.において継続されている。それに対し、同じく「背の上方」'kətəʃ (Soq.) < *-tʃ (proto-MahS) では、proto-MahS から Soq.への変化において V(この場合は -ə-) が散発的に挿入されたものと考えられる。

起きてから、散発的な母音挿入が行われたと考えられる。即ち、*-Cʃ > *-ʃ の弱体化 > *-CVʃ という変化である。最後に、(例 14) 並びに (例 23) の変化を以下のように示しておく。

	(例 14)	(例 23)
	*'xajmʃ	*ma'ɬVɾʃ
3 子音連続の場合の母音挿入	*'xajməʃ	—
母音が直前にある場合、*-ʃ の弱体化	*'xajməh	*ma'ɬVɾʃ
2 子音連続の場合の散発的な母音挿入	—	ma'ɬarəʃ
	'hi:meh	ma'ɬarəʃ

4 おわりに

本稿の目的は proto-MahS から Soq. への歴史的変遷を明らかにすることであった。起源的 *k, *ʃ, *h の中で、歴史的変化が最も複雑な *ʃ を特に問題視した。そして、*ʃ が Soq. において ʃ と h に分裂した条件として、複数の要因を提示した。それでもなお残った問題がある。それは、proto-MahS の *ʃ が h だけでなく j に弱体化した事例があったということである。h と j を比べると、j の方がより弱体化している。h > j という流れであったと考えられるが、なぜ 1 言語内で h と j の揺れがあるのかということが問題になる。音環境によるものなのかどうかを今後検討していきたい。

【参照文献】

- Hock, Hans Heinrich (1991) *Principles of historical linguistics*. Second edition. Berlin / New York / Amsterdam: Mouton de Gruyter.
- Johnstone, Thomas M. (1977) *Harsūsi lexicon*. London / New York / Toronto: Oxford University Press.
- Johnstone, Thomas M. (1981) *Jibbāli lexicon*. New York: Oxford University Press.
- Johnstone, Thomas M. (1987) *Mehri lexicon and English-Mehri word list: With index of*

- the English definitions in Jibbāli lexicon compiled by G. R. Smith.* London: School of Oriental and African Studies.
- Leslau, Wolf (1937) Der š-Laut in den modernen südarabischen Sprachen. *Wiener Zeitschrift für die Kunde des Morgenlandes* 44: 211-218.
- Leslau, Wolf (1938) *Lexique soqotri (sudarabique moderne): avec comparaisons et explication étymologiques.* Paris: Librairie C. Klincksieck.
- Leslau, Wolf (1939-44) Le rapport entre š et h en semitique. *Annuaire de l'institute de philologie et d'histoire orientales et slaves* 7: 265-272.
- Lonnet, Antoine and Marie-Claude Simeone-Senelle (1997) La phonologie des langues sudarabiques modernes. In: Alan S. Kaye (ed.) *Phonologies of Asia and Africa*, vol. 1: 337-372. Winona Lake: Eisenbrauns.
- Militarev, Alexander and Leonid Kogan (2000) *Anatomy of man and animal.* Semitic etymological dictionary, vol.1. Münster: Ugarit-Verlag.
- Nakano, Aki'o (1986) *Comparative vocabulary of southern Arabic: Mahri, Gibbali and Soqotri.* Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa.
- 二ノ宮崇司 (2005) 「マフラ・セム祖語の音韻再建に関する諸問題」『言語学論叢』24: 35-53.
- 二ノ宮崇司 (2007) 「マフラ・セム諸語の後部歯茎摩擦音の歴史的変遷について」筑波大学大学院人文社会科学研究所修士論文.
- Simeone-Senelle, Marie-Claude (1997) The modern south Arabian languages. In: Robert Hetzron (ed.) *The Semitic Languages*, 378-423. London / New York: Routledge.
- Simeone-Senelle, Marie-Claude and Antoine Lonnet (1985-1986) Lexique des noms des parties du corps dans les langues sudarabiques modernes. *Matériaux arabes et sudarabiques* 1: 259-304.
- Simeone-Senelle, Marie-Claude and Antoine Lonnet (1991) Lexique soqotri: les noms des parties du corps. In: Alan S. Kaye (ed.) *Semitic Studies in Honor of Wolf Leslau*, vol. 2: 1441-1487. Wiesbaden: Otto Harrassowitz.
- Voigt, Rainer M. (1987) Die Personalpronomina der 3. Personen im Semitischen. *Die Welt des Orients* 18: 47-63.

付録 A

筆者が想定する proto-MahS の母音・子音目録 (表 1・表 2)、ストレスの位置を以下に示す¹⁶。

表 1: マフラ・セム祖語の母音

*i		*u
*e	*ə	*o
	*a	

表 2: マフラ・セム祖語の子音

	両唇音	唇歯音	歯音	歯茎音	後部歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	咽頭音	声門音
破裂音	*b			*t *d			*k *g		*ʔ
鼻音	*m			*n					
ふるえ音				*r					
摩擦音		*f	*θ *ð	*s *z	*ʃ		*x *χ	*h *ħ	*h
側面摩擦音				*ɬ *ɮ					
接近音	*w					*j			
側面接近音				*l					
喉頭化音 or 放出音			*θʰ	*tʰ *sʰ	*ʃʰ		*kʰ		

proto-MahS のストレスは最終音節に置かれる非示差的な固定アクセントであったと考えられる。

¹⁶ これらの再建の根拠は 二ノ宮 (2007: 18-24) を参照。

付録 B

MahS の言語資料を挙げる際に用いる文献は次のように [] で示す¹⁷。

- Mhr.: Johnstone (1987) [J1], Simeone-Senelle & Lonnet (1985-1986) [SL1]
 Hrs.: Johnstone (1977) [J2]
 Jib.: Johnstone (1981) [J3]
 Soq.: Leslau (1938) [L4], Johnstone (1981) [J4a], Nakano (1986) [N4],
 Johnstone (1987) [J4b], Simeone-Senelle & Lonnet (1991) [SL4],
 Simeone-Senelle (1997) [S4]

再建に使用した語、並びにその proto-MahS の再建形は以下のとおりである。

音対応 1	Mhr.	Hrs.	Jib.	Soq.	proto-MahS
1 「腹」	'ki:rəʈ [J1: 214]	'kerəʈ [J2: 70]	'ç'irʈ [J3a: 135]	'ʃerit [N4: 7]	*'kerʈ
音対応 2					
2 「眠り」	ʃə'ne:t [J1: 395]	ʃə'ne:t [J2: 124]	ç'ɔnut [J3a: 293]	'ʃinoh [L4: 335]	*'ʃi'nVt
3 「尻」	'ʃit [J1: 396]	'ʃit [J2: 125]	'ç'et [J3a: 267]	'ʃeh [L4: 413]	*'ʃit
4 「肝臓」	ʃəb'dit [J1: 392]	ʃəb'det [J2: 123]	ç'ub'det [J3a: 124]	'ʃəbdəh [SL4: 1474]	*'ʃib'dit
5 「ナイフ」	əʃ'kaj [J1: 394]	əʃ'ki:ʔ [J2: 124]	ie'ʔtə:ʔ [J3a: 267]	'ʃkoʔ [J4b: 394]	*'ʃkVʔ

¹⁷ 例えば「腹」'ki:rəʈ [J1: 214] は Johnstone (1987) の p.214 から引用した Mhr.の資料であることを示す。

	音対応 2	Mhr.	Hrs.	Jib.	Soq.	proto-MahS
6	「太陽」	—	—	'ç ^y um [J3a: 267]	'jam [J4b: 462]	*'jam, *'jim
7	「舌」	əw'ʃe:n [J1: 256]	'le:ʃən [J2: 85]	ɛl'ç ^y ɛ:n [J3a: 165]	'le:ʃin [J4a: 165]	*'lʃen, *'leʃn
音対応 3						
8	「盗人」	'he:ɾək' [J1: 160]	'he:ɾək' [J2: 52]	'ʃerk' [J3a: 263]	i'ha:ɾək' [N4: 55]	*'ʃerk', *'ʃa'ɾək'
9	「七 (男性)」	'ho:ba [J1: 150]	'ho:ba [J2: 49]	'ʃo:ɸ [J3a: 259]	'je:bəɸ [S4: 395]	*'ʃobɸ
10	「七 (女性)」	jə'bajt [J1: 150]	hə'bajt [J2: 49]	ʃəb'ɸət [J3a: 259]	'je:bəɸəh [S4: 395]	*'ʃob'ɸət
11	「六 (男性)」	'he:t [J1: 161]	'ha:ttəh [J2: 53]	'ʃet [J3a: 264]	'jha'ɸt [S4: 395]	*'ʃett
12	「六 (女性)」	jə'ti:t [J1: 161]	jə'tet [J2: 53]	'ʃtət [J3a: 264]	'hi:təh [S4: 395]	*'ʃe'tət
13	「土」	—	'ho:hi [J2: 57]	'haʃi [J3a: 118]	'hohi [J4a: 118]	*'hVʃj
14	「五 (男性)」	'xajməh [J1: 443]	'xajməh [J2: 141]	'xɪʃ [J3a: 302]	'hi:meh [S4: 395]	*'ximʃ, *'xajmʃ
15	「五 (女性)」	'xmo:h [J1: 443]	xəm'mo:h [J2: 141]	'xɔʃ [J3a: 302]	'hojməh [S4: 395]	*xoj'moʃ
16	「頭 (単数)」	hə'ro:h [J1: 310]	hə'ri:h [J2: 101]	'reʃ [J3a: 201]	'rhej [SL4: 1468]	*'rVʃ

	音対応3	Mhr.	Hrs.	Jib.	Soq.	proto-MahS
17	「臼齒 (単数)」	mə'ɕra:ɬ [J1: 478]	mə'ɕrəɬ [J2: 152]	mə'd̪ɕrɛɟ [J3a: 327]	'maɕrəɬ [J4a: 327]	*ma'ɕrɛɟ
音対応4						
18	「名前」	'ham [J1: 159]	'həm [J2: 52]	'ɕum [J3a: 262]	'ɕɛm [J4b: 159]	*'ɕəm
19	「緑色」	hə'ɕawr [J1: 163]	hə'ɕo:r [J2: 54]	ɕə'd̪ɕ'rɔr [J3a: 265]	'ɕəɕrɬar [J4a: 265]	*ɕə'ɕar
20	「齒茎」	hbi'je:t [SL1: 290]	—	'ɕbət [J3a: 260]	ɕe'bi:ɕih [SL4: 1474]	*ɕebi'jet
21	「胃」	'ho:fəl [J1: 153]	'ho:fəl [J2: 50]	'ɕfəl [J3: 260]	d ^ə -bə-'ɕa:fəl [SL4: 1475]	*'ɕafɪ
22	「山羊」	'taɕh [J1: 404]	'ta:ɕəɬ [J2: 128]	'tuɕ [J3a: 273]	'teɕ [L4: 441]	*'taɕɕ
23	「臼齒 (複数)」	mə'ɕo:rəɬ [J1: 478]	mə'ɕa:rəɬ [J2: 152]	mə'd̪ɕɔrɟ [J3a: 327]	ma'ɕarɟ [J4a: 327]	*ma'ɕVrɟ
音対応5						
24	「わきの下」	'xo:t [J1: 396]	mə'ɕxawt [J2: 125]	'ɕxət [J3a: 264]	'ɕhoh [J4b: 396]	*'ɕxawt
音対応6						
25	「木」	hər'majt [J1: 160]	hə'rom [J2: 52]	herum [J3a: 99]	'heram, 'ɕerehom [L4:146, 422]	*he'ram

The origin of Soqotri and its historical change: From the viewpoint of unvoiced post-alveolar

Takashi NINOMIYA

The aim of this paper is to pursue the development of the unvoiced post-alveolar from proto-Mahrian Semitic (= proto-MahS) up to Soqotri. The sound correspondences in Mahrian Semitic, which I deal with, and the reconstructed sounds of proto-MahS can be summarized as follows:

	Mehri	Harsusi	Jibbali	Soqotri		proto-MahS		proto-Semitic
1	<i>k</i>	<i>k</i>	<i>ç^y</i>	<i>f</i>	<	<i>*k</i>	<	<i>*k</i>
2a	<i>f</i>	<i>f</i>	<i>ç^y</i>	<i>f</i>	<	<i>*f</i>	<	<i>*f</i>
2b	<i>f</i>	<i>f</i>	<i>ç^y</i>	<i>f</i>	<	<i>*f</i>	<	<i>*ʔ_x</i>
2c	<i>f</i>	<i>f</i>	<i>ç^y</i>	<i>f</i>	<	<i>*f</i>	<	<i>*k</i>
3	<i>h / j</i>	<i>h / j</i>	<i>f</i>	<i>h / j</i>	<	<i>*f</i>	<	<i>*f</i>
4	<i>h / ħ</i>	<i>h / ħ</i>	<i>f</i>	<i>f</i>	<	<i>*f</i>	<	<i>*f</i>
5	<i>∅_(zero)</i>	<i>f</i>	<i>f</i>	<i>f</i>	<	<i>*f</i>	<	<i>*f</i>
6	<i>h</i>	<i>h</i>	<i>h</i>	<i>h / f</i>	<	<i>*h</i>	<	<i>*∅_(zero)</i>

The case of **f* is the most complicated among **k*, **f*, **h* of proto-MahS. In the beginning and middle of word, **f* was maintained in the neighborhood of *i*-vowel, but was changed to *h* otherwise. The *h* was also changed to *f* by dissimilation or by analogy. At the end of word, **f* was maintained in the neighborhood of vowels, but was changed to *h* otherwise. The only exception to this rule can be resolved by means of relative chronology.